

いわみじ ことづて
石見路の言伝

第4号：平成31年1月7日発行
発行：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
TEL 0852-36-8608
三隅益田道路発掘調査岡見事務所
TEL 0855-32-4175
FAX 0855-32-4176

島根県埋蔵文化財調査センターからのお知らせ



5月にスタートした三隅益田道路建設に伴う発掘調査は、真夏の暑さを乗り越え、雪の降る寒さに耐えてクライマックスを迎えました。

ついに明らかになった戦国時代の山城の全容をご紹介します。

※ ぽんた とりてあと

【普源田砦跡】 (浜田市三隅町岡見)

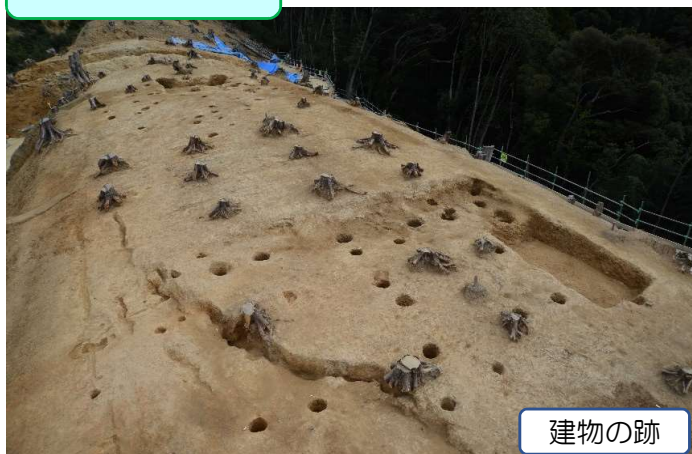


発掘調査前の普源田砦跡



普源田砦跡は、標高約65mの山上に築かれた城跡です。発掘調査前から、尾根上の広い平坦地や、深さ約2mの堀の跡が確認されていました。一方で、城主や城が使われていた年代など、詳しい城の歴史はわかっていません。

居住空間



建物の跡



大型の柱跡

山城には郭（くるわ）と呼ばれる平場があります。普源田砦跡の郭では、建物の跡がきれいに並んで見つかри、様々な遺物が出土しました。

見つかった柱の跡は約360あります。写真は最も大きな柱の跡で、深さ約1mの柱跡が、3m間隔で並んでいます。

防御施設



大量の土砂で埋まった堀切



東端の巨大な堀切



北側斜面の豎堀

普源田砦跡では、敵の攻撃を防ぐための施設が数多く見つかりました。

尾根伝いの攻撃をしゃ断するための、堀切（ほりきり）と呼ばれる空堀（からぼり）は、深さが約5mもある大規模なものです。

斜面の敵の横移動を防ぐために掘られた、豎堀（たてぼり）と呼ばれる空堀は、広範囲に廻らされています。

また、郭の周囲は急傾斜に削って、登りにくくしていました。

出土品

戦国時代（約400年前）を中心とした年代の陶磁器や金属器、石臼、硯（すずり）などが、約500点出土しました。



中国製の碗



中国製の皿



備前焼のすり鉢



硯

現地説明会を開催します！

日時：平成31年1月19日（土） 13:00～14:00

※詳しくは表の連作先にお問い合わせください。